

# 東都1部

野球部創部以来の昇格1季目

## エース復活!

### 石橋良太選手が1年ぶりに神宮のマウンドに!

故障により春季リーグに登板機会がなかった石橋良太投手(国際学科4年 明德義塾高校)が最後の大会で見事に復活! 7試合に登板し4勝をあげる活躍で3位躍進の立役者となった。卒業後は社会人野球のホンダに内定

【東都大学野球秋季リーグ(1部)星取表】

順位	大学名	亜細亜大	國學院大	拓殖大	青学大	中央大	駒澤大	勝数	負数	分数	勝率	勝点
1	亜細亜大	●●●	○●○	○○	○○	○○	○○	10	1	0	0.909	5
2	國學院大	●●●	●●●	○○○	○○○	○○	○○○	9	5	0	0.643	4
3	拓殖大	●●	○●●	●●	○○	●○○	○○	7	5	0	0.583	3
4	青学大	●●	○●●	●●	●●	○○	○○○	5	7	0	0.417	2
5	中央大	●●	●●	○●●	●●	●●	○○○	3	9	0	0.25	1
6	駒澤大	●●	●○●	●●	○○○	○○○	●●	3	10	0	0.231	0

## 打率リーグ2位!

### 主将 北條貴之選手



主将としてチームを支え続けた北條貴之選手(国際学科4年 志学館高校)。打率.341は堂々のリーグ2位。[初の1部での戦いを3位で終えることが出来ました。しかし、けっして自分たちに力があつたわけではなく、1部で戦う中でたくさん学ぶことができました。新チームはこの貴重な経験を生かし、しっかりと力をつけ来春のリーグ戦に挑みます。これからもご声援よろしくお願ひします]



## ベストナイン賞!

### 三塁手 吉池勇太郎選手

同じくベストナイン賞を初受賞した3番サード吉池勇太郎選手(経済学科4年 水戸英陵高校)。堅守と打率リーグ3位が高く評価された



## ベストナイン賞!

### 一塁手 高橋弘樹選手

ベストナイン賞に輝いた4番ファースト高橋弘樹選手(国際学科4年 拓大紅陵高校)。大会2本塁打を含む13打点はリーグトップの成績! 卒業後は社会人野球のJFE 東日本に内定

## 7年目内田監督に聞く



**内田俊雄監督**  
1946年広島県広島市生まれ。広島商業、亜細亜大学を経て、社会人野球の三協精機で活躍。1978年、亜細亜大学野球部監督に就任。2006年より拓殖大学野球部監督に就任し、当時3部だったチームを2年目で2部に昇格。2013年、創部初の1部に導く

## 新チームのキープレイヤー



**村岡健次郎選手**  
新チームの主将を任された外野手の村岡健次郎選手(国際学科3年 志学館高校)。大学で実力つけた選手で、チームからの信頼は厚い



**佃 勇典投手**  
エースの期待がかかる佃 勇典投手(国際学科3年 広島商業高校)。秋季リーグでは安定感抜群のピッチングで、7試合に登板する活躍。防御率リーグ4位

東都大学野球秋季リーグ(1部)が9月7日~10月31日に神宮球場で開催された。初めての1部リーグに挑んだ本学は、開幕戦の國學院大戦に勝利し、幸先良いスタート。中央大、駒澤大に勝利し勝点を得ると、最終戦の青山学院大戦に連勝し、7勝5敗の成績で見事3位となった。この結果、来年度の春季リーグを1部で迎えることが決定。優勝は亜細亜大学(リーグ5連覇)、準優勝は國學院大学。

**ひたむきさで乗り切った今季**  
内田俊雄監督に今年を振り返り、来年の抱負を聞いた。  
「今年のチームは4年生を中心にまとまりがあり、監督の心配をよそに、スツツと勝つてしまふ不思議なチームだった。  
春季は絶対エースの石橋が故障離脱したこと、結果的にチームが危機感を持ったのが大きかった。石橋頼りだった投手陣が、チームのためにどうすればいいのか、考えて投げるようになった。尾松、佃が柱となり、石橋の穴を埋め、中継ぎ陣も頑張った。入替戦で快投した福永がもつとも良い例だ。7回を無安打ピッチングするとは思ひもなかった。  
1部チームとの力の差があることは分かっていった。世間の注目度や試合の緊張感も

今までは違ふ。選手たちは1部に昇格が決まっても浮かれることなく目の色を変えて練習した。ただ、石橋は復帰したが、今度は尾松と福永が故障離脱し、秋季も不安の残るチーム構成となってしまった。  
結果だけを見れば秋季3位は出来過ぎ。本当に強いチームは接戦を勝ち切るゲームメイクが出来る。2強と言われる亜細亜大や國學院大と1点差のゲームはできるが、そのわずかに1点の差がとて大きく、力の差を痛感した。これから越えなければならぬ大きな壁だ。何度ふつかつて跳ね返されても、いつかそれを突破する。それが伝統となっていく。本物の強豪校・伝統校になるためには選手の努力だけでは越えられない壁がまだまだある。  
新チームの主将は村岡健次郎。3年連続で一般入試の選手から主将が選ばれた。彼らは高校時代に目立った選手ではなかったが、練習は誰よりもひたむきだった。そういう選手は強い。素質だけでは選手は成長しない。  
新チームのプランは全くの白紙。打点の半分以上をあげていた、吉池、高橋、北條のクリーンナップと、石橋、野添などチームの中心選手の抜けた穴を埋めるのは大変だ。今はすべての選手にチャンスがある。まずは毎日の練習、四国合宿、オープン戦を通して、チーム内で競争を行い、実力でレギュラーの座をつかんで欲しい」